



「こんにちは 市長です」

8月15日号

2030年度の温室効果ガスの削減率を「産業は7→37%、家庭は39→66%に目標値を大幅引き上げ」を菅政権が決めた。地球は疲れている。温暖化は年々進む。災害は世界各地で起こる。それも半端ではない大規模なものになっている。何をどうすればCO2が目標通り削減できるかをセットで示してくれないと、絵に描いた餅になってしまう。格好だけでは済まされない。

太田では再生可能エネルギーが注目される前から太陽光発電の取り組みをしていた。市役所南面の窓ガラスを太陽光発電ができるものにした。25年も前のこと。国が太陽光発電を高価格で買い取ると決めたその日にさくら工業団地のメガソーラーを稼働させた。全国初の試みとして、城西の社は経済産業省所管のNEDOから実証研究地に選定された。太陽光発電補助金は平成13年度にスタートさせ、令和2年度までに6400件、6億4千万円を支給してきた。発電出力は4万9700kWになる。国の固定価格による買い取り(FIT)が順次終わり、卒FITに移っていく。卒時FIT時代、買い取りの価格と余った電力をどう使うのかがテーマになると考えた。「(株)おた電力」を太田都市ガス(株)と共同でつくった。狙いは電力の地産地消である。今、卒FIT電力を買い上げて市民会館やエアリス、美術館・図書館、GKAなどに電力を供給している。まだ、全体の10%にも満たない買い上げしかできていない。順次卒FITに切り替わっていく。その電力を小・中学校をはじめ市内公共施設で消費していく。屋根にはまだ4万kWの電力がある。標準的な価格プラスアルファを太田市金券で買い取る。それを地産地消につなげていく

市内で電気をつくり、市内でそれを使う。そして金券をゲット。カーボンニュートラルのまちが近づく。(7/28記)

※カーボンニュートラル…温室効果ガスの排出量を実質的にゼロにすること。